

金沢城公園情報発信計画

<趣旨、検討体制>

◆趣旨

国史跡に指定され、兼六園と並ぶ観光・交流の拠点である金沢城の価値や魅力を国内外に効果的に発信するための方法（情報発信の場所、手法、機会など）を取りまとめる計画。

二の丸御殿の復元整備工事を見据え、計画に沿って情報発信を進めることにより、多くの方々に金沢城への関心を高め、理解を深めていただくことを目指す。

◆検討体制

事務局：土木部公園緑地課

会議：金沢城公園情報発信計画検討会



金沢城公園全景（令和2年10月撮影）

計画の構成

<基本構成>

1. 趣旨

2. 金沢城の価値、魅力

- (1) 史跡としての価値、魅力
- (2) 金沢の歴史の重層性を表す象徴的な場
- (3) 観光・交流の拠点、県民の憩いの場

3. 来園者の属性、ニーズ等

- (1) 現状把握のための調査
- (2) 来園者の動向、評価、関心など

4. 情報発信の課題、対応方針

- (1) 来園前、中、後の各段階における課題
- (2) 文化施設間の回遊性における課題
- (3) 現状と今後の方向性

5. 情報発信の方法

- (1) 来園前に得られる情報の充実
 - ・公式ウェブサイトの充実
 - ・兼六園や周辺文化施設との連携強化
- (2) 園内における案内の充実
 - ・各施設等が連携した案内
 - ・二の丸御殿の復元の取り組みの公開
 - ・デジタル技術を活用した発信
 - ・参加型の取り組み
- (3) 来園後の理解を深める情報の充実
 - ・デジタルアーカイブの充実
 - ・記録撮影の継続

金沢城の価値、魅力

<史跡としての価値、魅力>

◆江戸時代を通じ最大の大名家の居城であった、代表的な近世城郭の遺構としての価値

- ・二の丸御殿を中心とし、兼六園と一体となった城郭の姿
- ・城を中心として形成され、現代のまちづくりにも色濃く残る城下町の姿

→歴史的・文化的価値については、史跡金沢城跡保存活用計画(令和3年3月)において整理

<金沢の歴史の重層性を表す象徴的な場>

◆城郭としての歴史だけでなく、金沢の歴史を象徴する場

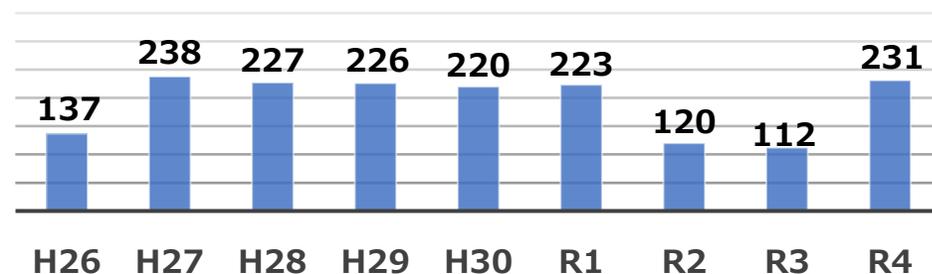
- ・城郭以前 一向一揆の拠点
- ・明治以降 軍隊の拠点
- ・戦後 金沢大学の城内キャンパス

<観光・交流の拠点、県民の憩いの場>

◆多様な層による幅広い利活用

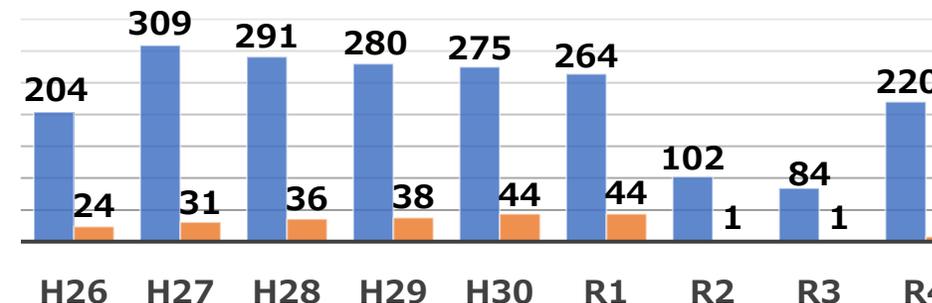
- ・兼六園と合わせ、金沢の中心市街地観光・交流の拠点
- ・緑の空間として、近隣住民をはじめとする県民の憩いの場

金沢城公園入園者数(単位:万人)



兼六園入園者数(単位:万人)

うち外国人入園者数



来園者の属性、ニーズ等

<現状把握のための調査>

◆ 入口別来園者数の計測

7月18(火)～24日(月)実施。
全入口において来園者実数を計測。

◆ 日本人観光客アンケート調査

9月30日(土)実施。
石川門口と鼠多門口において、園内観覧を終えた観光客を対象に聞き取り調査。
有効回答数 94件 (石川門61、鼠多門33)

◆ 金沢城体験ツアー参加者アンケート調査

7月から10月にかけて開催した体験イベント時に実施。
有効回答数 252件

◆ 観光DMP、ヤフーDS.INSHIGT

県観光部局において行っている、ビッグデータを活用した観光客動向調査。



来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 来園者の動向>

日本人観光客アンケート 入口別来園者数調査

橙数字は、観光来園者が
その施設を来訪した割合

■良かった場所・施設

- ・全体的に良かった 46%
- ・五十間長屋 27%
(内部見学あり 18%)
- ・三の丸広場 10%
- ・石川門 7%
- ・河北門 6%
- ・橋爪門 5%
- ・三十間長屋 5%

二の丸まで来訪する観光客は半数以下
良かった施設は、三の丸から見える施設が多い

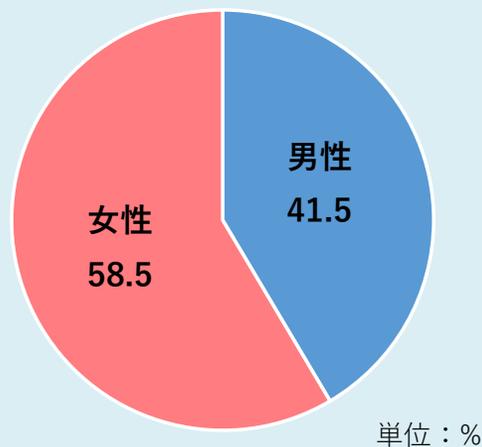


来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 来園者の動向（日本人観光客アンケートより）>

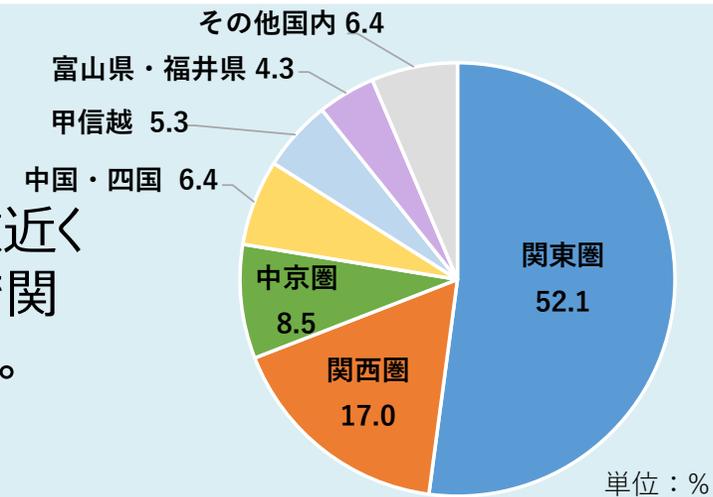
性別

女性が若干多い。



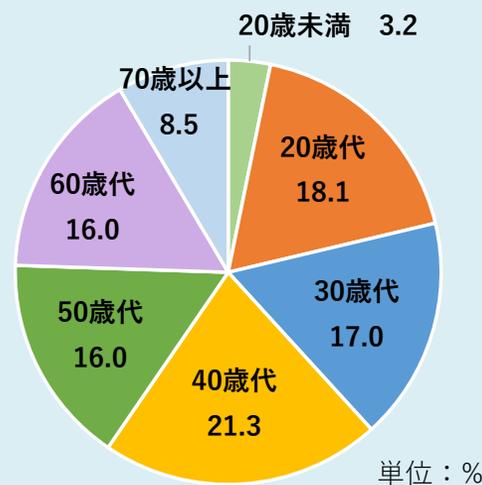
居住地

関東圏が半数近くを占め、次いで関西圏、中京圏。



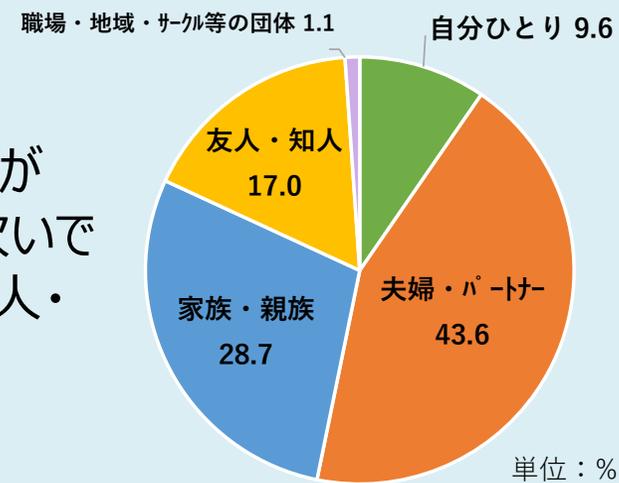
年齢

20歳代から60歳代まで幅広い。



来訪形態

「夫婦・パートナー」が4割近くを占め、次いで「家族・親族」「友人・知人」。

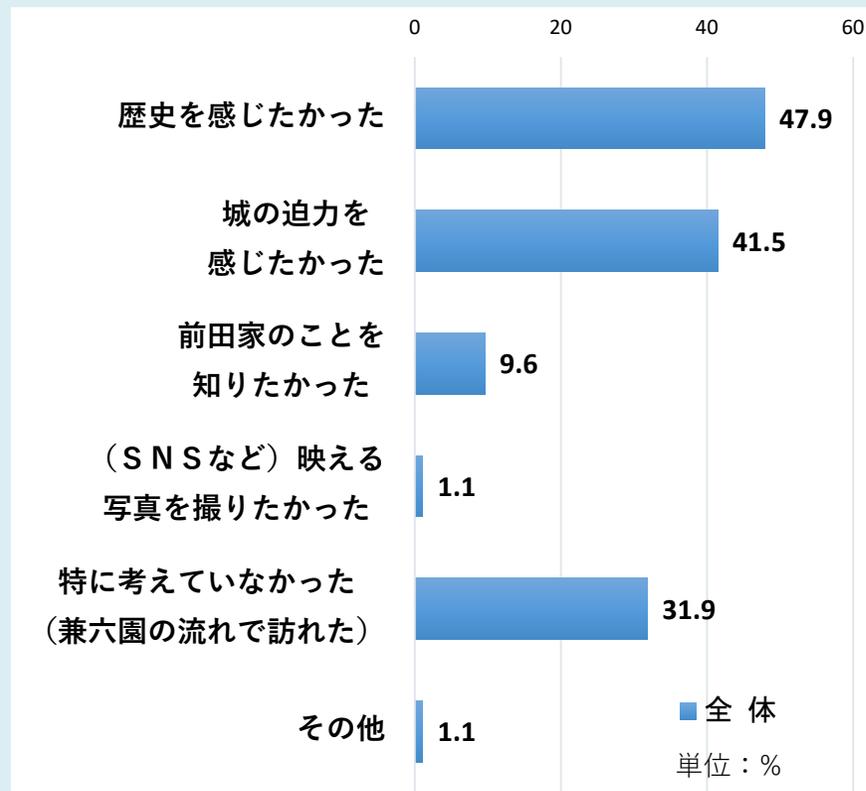


来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 来園者の動向（日本人観光客アンケートより）>

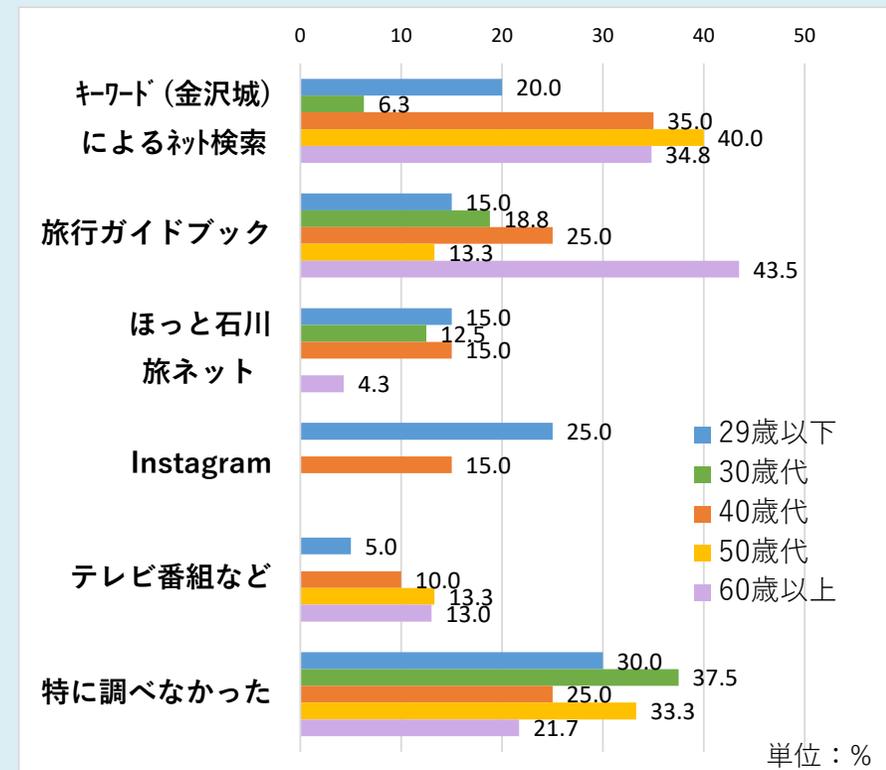
来園動機

「歴史を感じたかった」「城の迫力を感じたかった」が4割強。「兼六園の流れで」が3割。



金沢城の情報入手経路（年齢別）

「キーワード検索」は40歳以上、「旅行ガイドブック」は60歳以上、「Instagram」は29歳以下で多い。

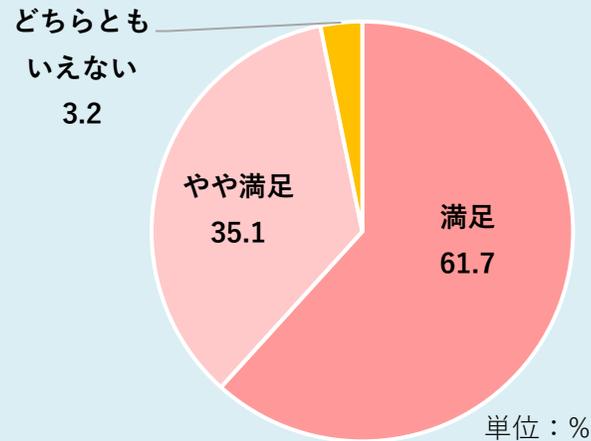


来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 園内評価（日本人観光客アンケートより）>

金沢城の満足度

満足度は非常に高いが、インフォメーションに関連する要望が上位にあがっていることに留意する必要がある。

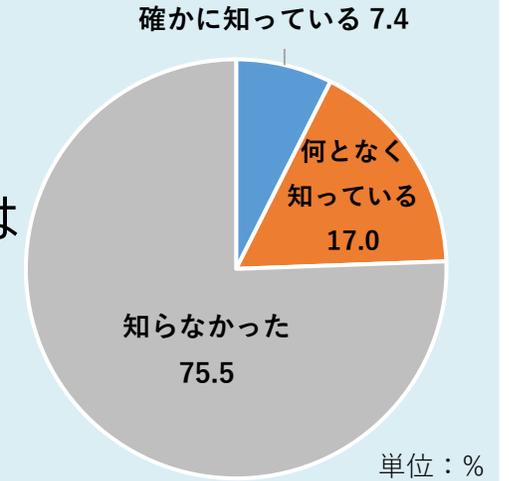


【改善点など（上位）】

- どこを見ればよいかわからない 5件
- 天守がない 4件
- 階段が上がれない 2件
- 時間がなかった 4件

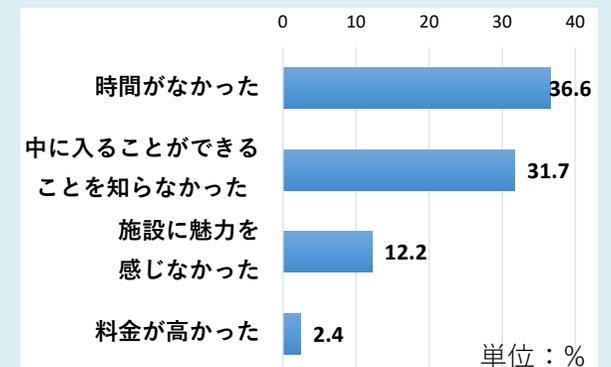
二の丸御殿復元整備認知状況

二の丸御殿復元の認知は全体の1/4程度。



五十間長屋に入らなかった理由

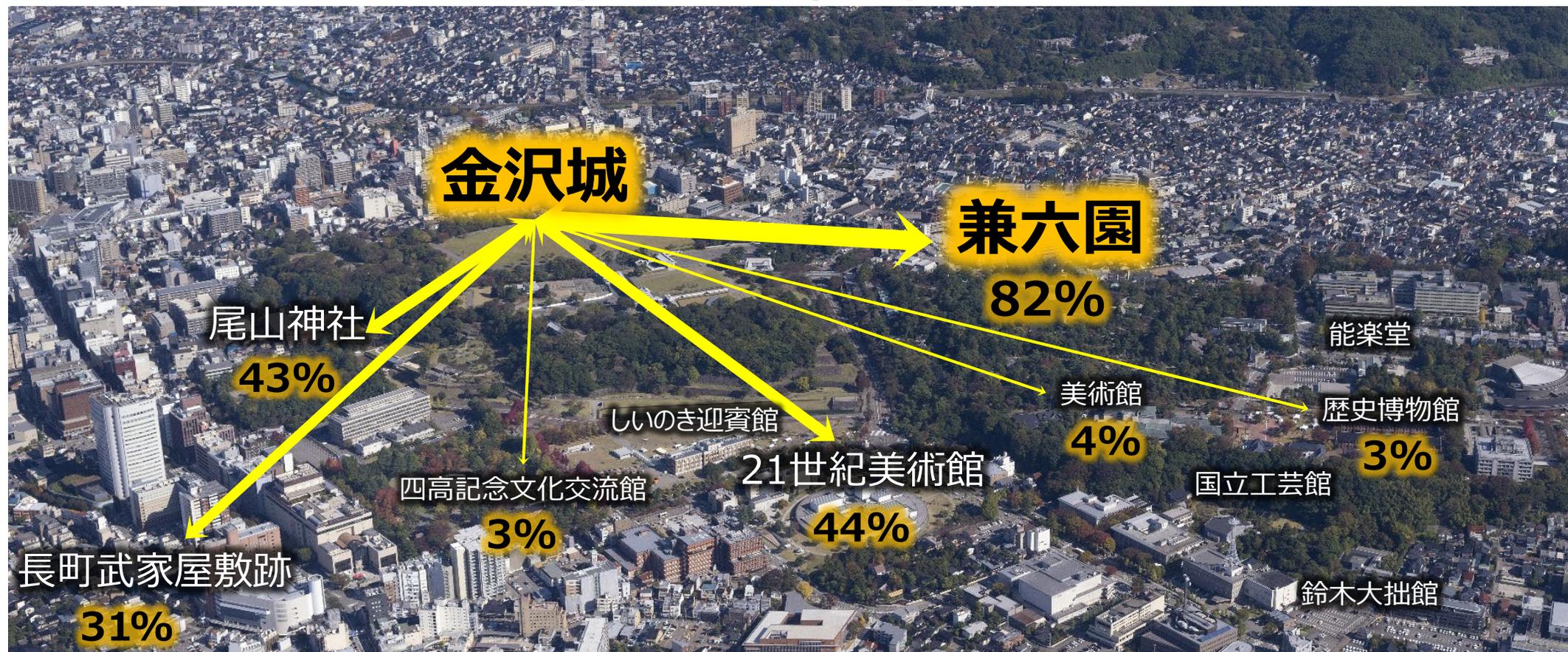
「時間がなかった」「入れることを知らなかった」など、園内施設等の情報を伝えきれていない。



来園者の属性、ニーズ等

＜現状把握 周辺施設との相互利用（日本人観光客アンケート）＞

金沢城公園入園者の周辺文化施設への来訪率



兼六園への来訪率は高いが、他の周辺文化施設への来訪率は低い

来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 園内評価（金沢城体験ツアーアンケートより）>

◆金沢城体験ツアー

- ・実際の工事や修理の現場を体験できるイベント
- ・7～10月に計15回開催、参加者数延べ261名



【内容】

- ・埋蔵文化財調査で出土した瓦の洗浄体験（二の丸広場）
- ・鉛瓦葺き体験、梅鉢紋打ち出し体験（三十間長屋）
- ・石垣積み体験、石を持ち上げる道具体験（丸の内園地）

■イベントの満足度 **99%**

- ・とても満足 66%
- ・満足 33%

■参加したいイベント（主なもの）

- ・重要文化財の特別公開や解説
- ・復元工事や修繕工事の現場公開
- ・埋蔵文化財調査の見学や出土品の解説
- ・石垣の歴史や技法について学ぶ
- ・様々なジャンルの専門家によるツアー

■参加したいイベント形式

- ・体験型イベント
- ・講師の説明を聞きながら園内を巡るツアー

■金沢城の魅力

- ・重要文化財 58%
- ・石垣 55%
- ・復元建造物 46%
- ・歴史 38%
- ・玉泉院丸庭園 29%
- ・景観 27%
- ・自然 25%
- ・ガイドによる解説 19%
- ・埋蔵文化財調査 18%
- ・散歩・ウォーキング利用 18%

■イベント認知経路

- ・家族・知人から 19%
- ・チラシ 15%
- ・金沢城HP 12%
- ・LINE 7%
- ・新聞 6%
- ・X (twitter) 3%

公園内で体験、学べるイベントへのニーズが高く、今回の体験ツアーも満足度は高い
金沢城の魅力として、「重要文化財」、「石垣」、「復元建造物」、「歴史」を挙げる人が多い

来園者の属性、ニーズ等

<現状把握 発信力、話題性>

関心の高さ (WEB検索ボリュームR5.4~R5.9) 出典: ヤフー・データソリューション DS.INSIGHT

1位	姫路城	270,400
2位	名古屋城	170,100
3位	大阪城	142,400
4位	松本城	124,900
5位	犬山城	121,700
6位	二条城	112,000
7位	彦根城	104,800
8位	熊本城	89,700
9位	小田原城	81,200
10位	五稜郭	77,300
11位	首里城	76,600
12位	松江城	52,600
13位	駿府城	48,600
14位	松山城	48,300
15位	竹田城	37,300
16位	上田城	32,200
17位	和歌山城	27,500
18位	金沢城	26,800

1位	兼六園	72,200
2位	後楽園	71,200
3位	栗林公園	36,600
4位	偕楽園	29,100

兼六園は三名園 + 栗林公園の中で、最も高い検索数
民間の庭園特集などでも最上位(話題性、関心の高さ)

金沢城は天守や御殿のない城としては上位に
挙げられるが、全体ではトップ10に入らない

左の中で天守閣や御殿 (現存・復元) がない城
五稜郭、江戸城、忍城、上田城、駿府城、竹田城、金沢城



現在は、兼六園の集客力に頼る部分が多い

情報発信の課題、対応方針

<現状の課題、対応方針>

◆来園前における課題

- ・明確な動機を持たず、兼六園の流れで来訪する方が30%超。
- ・滞在時間30分以内の方が40%超。（「時間がなかった」という意見とも関連）
- ・一方で、来園の満足度は非常に高く、97%の方が満足の回答。

事前の下調べをせず兼六園の流れで来園し、魅力的な施設とを感じるが、時間を取ることができず帰る方が一定数存在する可能性



◆対応方針

- 来園前に得られる情報の充実
- 兼六園や周辺文化施設との連携強化



相互リンクは充実しているが、ウェブサイトは個々に存在



ガイドマップで両園の位置関係は理解できるが、一体的な利活用の提案は不足

情報発信の課題、対応方針

<現状の課題、対応方針>

◆来園時における課題

- ・三の丸広場など入口周辺だけを観覧、写真撮影して退園する傾向が見られる。
- ・意見として、園内の順路がわかりづらいことが挙げられている。
- ・五十間長屋に入れることを知らない方が32%存在、二の丸御殿復元の認知度が24%に留まる。

天守のようなターゲットがないため、園内における動線や施設の案内がわかりづらく、金沢城の価値や魅力を十分に伝えられていない可能性



◆対応方針

- 園内における案内の充実
- 復元の取り組みの公開
- デジタル技術の活用

同一時間帯の三の丸広場、二の丸広場



三の丸広場の方が、人の流れが多く賑わう。

情報発信の課題、対応方針

<現状の課題、対応方針>

◆来園後の行動における課題

- ・園内では、実物にふれることで他の手段では得られない経験ができる一方、時間的な制約など、学びや理解を深めるには限界がある。
- ・近年、SNSなど来園者が情報の発信者となる発信が、関心を高め来訪者の増加につながる有効な手段となってきた。

学びや理解を深めるための詳しい資料等の公開、提供の必要性
(主にインターネットを活用した発信)
来園者が発信者として参加しやすい環境づくりの必要性



◆対応方針

- 資料や記録等の公開
- 参加型の取り組み、環境づくり

金沢城デジタル長屋



御城中壱分碁絵図

大分類：絵図
中分類：金沢城
小分類：全域図
資料名：御城中壱分碁絵図



金沢城を探る 「石垣の博物館」 その技と意匠

大分類：刊行物
中分類：金沢城調査研究パンフレット
資料名：金沢城を探る 「石垣の博物館」 その技と意匠

情報発信の課題、対応方針

<現状の課題、対応方針>

◆文化施設間の回遊性の課題

- ・観光客にとって、兼六園と金沢城はひとまとめの施設という認識。
- ・中心市街地の文化施設では、兼六園、金沢城、金沢21世紀美術館の来訪者が突出し、その他は少ない状況。

兼六園と金沢城は歴史的にも不可分の施設

文化施設の観光の視点では、兼六園の1極集中に近い状況だが、各施設間の回遊性を高める取り組みの必要性



◆対応方針

- 兼六園との連携強化
- 周辺文化施設との連携強化



情報発信の課題、対応方針

<現状と今後の方向性>

